

多田富雄 七回忌追悼能公演

新작能

しよウ

かわ

# 生死の川 — 高瀬舟考

安樂死を主題に書かれた森鷗外の小説『高瀬舟』を題材に  
多田富雄が生死の根源への問いとして書き上げた  
新작能『生死の川 — 高瀬舟考』の上演

シテ 浅見真州



うつし世の生死の川のうき波の  
そのうたかたに身をたへて  
深き業苔に沈むなる  
われらが罪のありかをば  
たださんために来たりたり  
おん弔ひを止め賜へ  
のう われらは罪人にて候や

二〇一六年四月二十一日(木)  
十八時開場 / 十八時半開演  
於 国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1  
TEL 03-3453-1331

多田富雄七回忌追悼能公演

新作能

# 生死の川 — 高瀬舟考

免疫学者にして詩人・能作者として、生命の根源に遡って人間について考察した多田富雄。

その七回忌の祥月命日に今日的な問題である安楽死がテーマの未上演の『生死の川 — 高瀬舟考』が、その表現力を高く評価していた能楽師浅見真州により上演される。これは能が現代的な課題に立ち向かう力を持つことの証である。

## 新作能『生死の川 — 高瀬舟考』

前シテ

男の幽霊

浅見真州

ワキ

高瀬舟の船頭

宝生欣哉

アイ

鴨川下流の村人

野村万蔵

笛

松田弘之

小鼓

大倉源次郎

大鼓

国川純

太鼓

小寺佐七

地頭

浅井文義

地謡

岡久広

小早川

小早川修

岡田

岡田麗史

武田

武田文志

武田

武田宗典

小早川

小早川泰輝

浅見

浅見慈一

後見

武田友志

企画・制作 笠井賢一



**多田富雄** 茨城県結城市生まれ。東京大学名誉教授。野口英世記念医学賞、エミール・フォン・ペーリング賞、朝日賞、小林秀雄賞など受賞。文化功労者。免疫学の先駆的な研究に加え『免疫の意味論』などの著書により免疫と自己との関係を哲学的に捉え直す新たな視点を提出、自然科学を越境する地平を拓いた。それとともに新作能の作者として臓器移植をテーマにした『無明の井』、アインシュタインの相対性理論と原子力を取り上げた『石仙人』、夫を日本に強制連行され韓国に残された妻の老後を描いた『望恨歌』、また『原爆忌』『長崎の聖母』『沖繩残月記』という戦争三部作など、今までのテーマで新作能の歴史に新たな世界を加えた。脳梗塞に倒れてからは詩人・能作者、文筆家として亡くなる間際まで著作活動を続け、社会的弱者としてリハビリ制限の医療政策に対して抗議の署名活動を展開。現代への危機感からINSLA(自然科学とリベラルアーツを統合する会)を立ち上げ、講演・公演活動を行ってきた。

**浅見真州**(あさみまさくに) 観世流能楽師シテ方。浅見真健の五男として東京に生まれる。五歳のとき能「雲雀山」の子方で初舞台。鍊仙会(せせんかい)で観世寿夫に師事。昭和32年「敦盛」で初シテ。平成12年観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。17年芸術選奨文部科学大臣賞。同年紫綬褒章受賞。25年「隅田川」の優れた舞台成果と「重衡」を始め復曲能における顕著な業績に対し芸術院賞受賞。古典の能から復曲能、新作能と幅広く優れた成果を上げる。多田富雄との交流も深く、対談や能評など多数ある。この未上演の新作能『生死の川 — 高瀬舟考』は多田富雄から浅見真州に依託されていた能本であり、七回忌に上演されることとなった。

2016年4月21日(木) 18時開場 / 18時30分開演

○会場：国立能楽堂

○入場料：正面 10,000円

脇正面 8,000円

中正面 6,000円

○主催：多田富雄七回忌追悼

能公演実行委員会

○お申込：アトリエ花習

TEL 090-96676-3798

FAX 03-56688-2810

http://atelierkashu.com/



多田富雄・人と仕事 1934-2010 (仮題)

自然科学と人文科学の総合を体現した多田富雄の全体像をコンパクトに描く。冊。◎(著作集)パイロット版 2016年4月刊予定

多田富雄・新作能全集

多田富雄の遺した新作能全八作品の脚本と、「生死の川」を含む未上演作を収録。英訳六作品も収めた愛蔵版。2012年4月刊

藤原書店

東京都新宿区早稲田鶴巻町523  
TEL 03-5272-0301  
www.fujiwara-shoten.co.jp  
表示は税抜本体価格